

公認会計士三田会



©慶応義塾

第46号 会報

目次

会長挨拶 01 三田会会長／小見山満(昭和52年経済学部卒)	社会から求められる公認会計士へ 07 大木美裕(慶応義塾大学経済学部4年)
公認会計士三田会の皆さまへ 02 慶応義塾長／伊藤公平(平成元年理工学部卒)	人との繋がりを大切に 08 先崎優太(慶応義塾大学商学部4年)
国政復帰!!お世話になりました 03 衆議院議員(長野1区)／若林健太(昭和62年経済学部卒)	公認会計士試験の状況 09
今こそ公認会計士の価値を考えると 04 三田会副会長／新井達哉(昭和63年経済学部卒)	公認会計士試験 合格一覧 10
会計士が気候変動を語る時代 05 三田会副会長／森田健司(平成7年商学部卒)	次期日本公認会計士協会会長就任のご挨拶... 11
公認会計士のニーズは益々高まる時代に! 06 三田会事務局／国見健介(平成13年経済学部卒)	総会報告・研修会のご案内 12
	役員一覧 13
	公認会計士三田会・会則 14



会長挨拶

2019年に会長に就任して4年目を迎えました。この間、新型コロナウイルスにより世界の慣習が変わってしまいました。人と会うことが控えられ、リモートワークが流行語になり、大学の授業もリモートで行われることが多くなりました。

そのような環境下で、公認会計士の世界も変わりました。公認会計士試験においては、令和3年には年2回の短答式試験が1回になり受験の機会が減りました。また公認会計士の監査業務もクライアントに訪問することが控えられ、証憑をPDF化して遠隔地で監査をしたり、棚卸をリモートで行ったり、暫定的とはいえ、現場で仕事ができない制限下で、期日に間に合うように監査して参りました。

公認会計士三田会でも多大な影響を受けました。毎年の行事を控えつつ、Webを活用して情報交換などをしてきましたが、かつての活気はなかなか得られておりませんでした。そのような雰囲気の中にあって、公認会計士試験の合格発表で、慶應義塾大学在学生・卒業生の合格者が178名で47年連続1位の座を守ったニュースが飛び込んできました。多くの後輩たちが、私たちの後に続いてくれていることに喜びと責任の重さを感じました。

福沢諭吉先生は、日本の閉ざされていた窓を開き、世界の文化をいち早く日本に紹介されました。ご存知のように、Book Keepingを帳簿記入、Dr・Crを貸方・借方と翻訳され、簿記や数字の表示の仕方である「,」(カン

マ)を推奨されました。それゆえ、会計の世界で公認会計士三田会は重要な存在であると思っております。

新型コロナやプーチン戦争がもたらす世界経済混乱の中で、公認会計士に求められる役割はより一層増えてまいります。私たちが、どれだけ公益に資することができるかは、個々人の自覚と専門領域における豊富な知識と経験によります。

これからは、公認会計士一人ひとりが専門的能力をより発揮して、社会の変化に対応しつつ発展に貢献している認識を持ちつつ活動していかなければならないでしょう。

公認会計士三田会では、会員の情報交換の場を持つことを目的として、総会での懇親会、研修会とその後の懇親会、ゴルフなどを通じた交流会、さらには若手だけの意見交換会などを企画する予定です。

是非、皆様のご参加をお待ちしております。



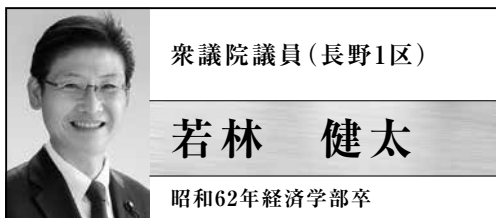
公認会計士三田会の皆さまへ

昨年(2021年)5月の塾長就任から約一年が経ちました。企業の方々にお話すると驚かれるのですが、塾長になってから私は初めて学校経営というものに携わっています。これまで大学の運営には理工学部長などの立場で尽力してきましたが、経営には関わってきません。そのような人が理事長に選ばれるという仕組みが企業では考えられないことでしょうか、慶應義塾の目的は教育と研究の先導であり、そのために必要とされる事業をアカデミックな観点から学校側が理事会に提案し、その内容を経営に長けた外部理事の方々が精査・修正し、監事の方々が法律面や予算面の妥当性を確認し、その結果としての提案を評議員会で審議するという手順を取ってきました。その裏方として経営と運営を強力に支えてきたのが、慶應義塾が誇る有能な職員たちです。

塾長就任以来、公認会計士の方々とお話する機会が多々あります。「学校法人会計は複雑ですよ」、「コンプライアンスの強化が求められていますね」と口を揃えておっしゃるので、最初のころは素直に「学校法人会計は複雑」と受け止めていたのですが、他の多くの学校法人の状況について意見交換してみてもわかってきたことは、学校が会計を複雑にしてきたということです。もちろん、営利という概念を隅に置いて永続性を重視する学校法人会計基準というものが現在の経営センスに追いついていない点は多々あり、それに合わせながら各校が対応してきた結果が現状なのですが、株主も存在せず営利も求めないとなると、前年度の継承が大前提とな

り、何か会計上の改善点が指摘されると、その場対応でパッチワークのように費目分類の変更や入れ替えを重ねてきたことで解説が難しくなるようです。こうなると、新規事業の発足時にどの費目が削れるかといった判断が下せず、一方的に支出が増加するといったことが起こり得ます。現場を預かる事務がいくら止めても理事長が暴走することもあるようです。そこで学校法人のガバナンスが問題となり、会計監査に加えてガバナンス体制やコンプライアンスが求められています。このようなことを受け、文科省に「私立学校ガバナンス改革」に関する一連の委員会が設置され、先日(2022年3月末)には特別委員会が報告書をまとめました。この報告書が慶應義塾に及ぼす直接的な影響はそれほど大きくないようなのですが、このこととは独立して、時代の先を行く教育と研究事業を実施するためにも、慶應義塾ならではの財務状況の透明性と説明責任、業務執行状況の管理と改善、コンプライアンス体制の強化を図っていく必要があります。

慶應義塾を母校として慕ってくださる公認会計士三田会の方々にはさまざまな場面でのご指導、ご支援をお願いするところがございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。



国政復帰!!お世話になりました

2021年10月31日投票日を迎えました第49回衆議院議員選挙で、長野1区から当選をさせて頂きました。128,423票。多くの皆さんにお世話になりました。参議院議員を1期6年勤めた後、選挙制度改正で長野県選挙区が二人区から一人区となり、激戦の末、議席を失いました。それから5年。臥薪嘗胆を重ねて、迎えた衆議院選挙。当初、マスコミの予想では、現職優位との報道ばかりでしたが、7千票の僅差で勝利する事が出来ました。北信長野1区を代表する代議士として、国政復帰する事が出来、多くの皆さんに感謝しています。

初登院を終えて、まず、戸惑いを覚えたのは、衆議院と参議院の違いです。同じ国会議事堂の屋根の下、向かって右が参議院、左が衆議院となりますが、風土文化が全く違うというのが率直な感想でした。程無くして、衛藤征四郎代議士から呼び出しがあって、「若林君の国政復帰を待っていたぞ。早速だが、公認会計士議員連盟の事務局長を任せるから、しっかりやってくれ」というお達しを頂きました。

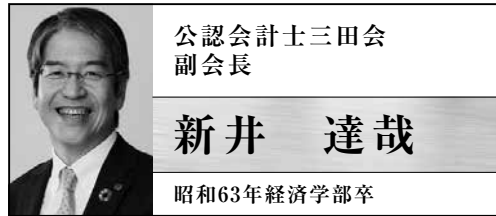
今通常国会では、公認会計士法の改正が上程されています。2次試験合格同期であり、監査法人でも一緒だった手塚君が日本公認会計士協会長の時に、国会議員として公認会計士法改正に関わる事になるのも運命だと感じています。

振り返れば、公認会計士となって35年近くが経過しました。バブル崩壊と共に監査業界も、大きな試練の時がありました。私は、地元長野に活動を移してから程無くして、地方金融機関の監査が行われる事となり、監査法人

の代表社員・長野事務所長となりました。尊敬する大先生から、代表社員就任にあたり、ウォーターマンの万年筆をプレゼント頂き、監査証明をする際のインクも指定されました。初めて、監査証明にサインをする時の緊張を今も忘れません。

40歳を過ぎて、政治の世界へ身を投じ、監査法人を辞しました。また、税理士法人も共同経営をしていた公認会計士の野路美徳君(63年商)へ完全にお任せをしました。以来、職業会計人としての業務からは遠ざかっています。政界では弁護士資格を持っている人は多いけど、公認会計士は少なく、希少価値があります。東日本大震災の際には、被災者への賠償を行いながら東京電力が経営を続けていけるスキーム作りを経産省のエース2名と西村康稔代議士と私の2プラス2で検討して、原子力賠償支援機構法案を事実上創り上げるという経験もさせて頂きました。監査や会計の知識がダイレクトに役に立った場面でもあります。

多くの国会議員が居る中で、自分自身のアイデンティティは、公認会計士である事。しかも、監査法人パートナーとして監査責任者としての経験を有している事であると自覚しています。自分自身の持ち味を發揮して、百鬼夜行の跋扈する政界を生き抜いて行きたいと思います。今後とも、三田会の諸先生のご指導をお願いして、近況と決意のご挨拶とさせて頂きます。



今こそ公認会計士の価値を考えるとき

公認会計士試験に合格された皆さん、誠におめでとうございます。公認会計士三田会は日本最大の三田会であり、皆さんが新規加入されたことを大変喜ばしく思います。私は公認会計士三田会副会長を拝命しております昭和63年経済学部卒の新井達哉です。

私が公認会計士試験（当時の公認会計士試験第2次試験）に受かったのが昭和62年ですので、あれから35年が経過しています。この35年間、大手監査法人及び準大手監査法人において監査業務を中心に様々な業務に携わらせていただきましたが、振り返ると大きな時代の変化を目の当たりにしていました。バブル崩壊、金融危機、ドットコムバブル、大手企業の会計不正、大手会計事務所の解散、リーマンショック、会計制度・監査制度の大きな変革、公認会計士試験制度改革等々、国内・海外において様々な事案があり、これに伴う公認会計士業界を取り巻く外部環境と内部環境の様々な変化がありました。まさに激動の昭和・平成といったところでしょうか。昨今では気候変動等の非財務情報の開示、テクノロジーの発展、国際情勢の変化等を踏まえた新たな分野での対応を求められ始めているという状況です。

そのような中、平成28年より公認会計士協会常務理事を拝命し、これまで中小監査事務所支援担当、総合戦略企画担当、国際担当及び広報・スポークスパーソン担当を務めてきました。現在、公認会計士協会では上述した環境変化を踏まえ、公認会計士は今後どのように社会に貢献していくべきか、どのような価値を社会に提供できるか等を取り纏

めた「ビジョンペーパー2022」を公表しました。今後の公認会計士業界を支えていただく皆さんに是非読んでいただきたいと思います。私はこの作成に参画させていただきましたが、この他に公認会計士のブランドについても強化施策を担当させていただき、この7月より「信頼の力を未来へ、Building trust, empowering our future」という新たなタグラインを公表し、会員・準会員の皆様と共に浸透施策を進めてしていきます。

今後、社会のグローバル化は益々進み、デジタル化による新たなテクノロジーへの対応が必要になることは言うまでもなく、気候変動等のサステナビリティ情報開示への対応、さらにはその保証業務への展開が想定されます。また、上場企業数の増加、公的分野への法定監査の拡大も進んでいきます。このような状況を踏まえ、公認会計士は、社会からの要望・要請に応えるため、その活躍の場を広げることは間違いありません。

この度合格された皆さんへの社会からの期待が非常に大きいということをご理解いただくと共に、公認会計士三田会という歴史ある組織と暖かい人間関係を是非活用してください。皆さんが社会に提供できる価値とは何かを常に考えていただき、将来、皆さん一人一人が公認会計士としての自信とプライドを持って多方面で活躍されることを期待しています。



会計士が気候変動を語る時代

今年度も公認会計士試験の大学別合格者数において、慶應義塾が首位の座を守ったと聞いています。長い歴史の中で、常に塾から公認会計士が多く社会に輩出され続けていることを大変誇りに思います。

私は、1995年に公認会計士試験に合格し、会計、監査の業界に入りました。その間、紙で会計処理、監査をする時代からデジタイゼーション(紙からデータベース化)が進み、デジタイゼーション(デジタルの活用によるビジネスモデルの変革)も進みました。いずれAIにより会計監査業務が可能になれば会計士が必要とされなくなるという声も聞こえてきます。しかし、実際のところ、会計や監査に関するAIの開発を進めているのは会計士自身なのです。会計士がなぜ、わざわざ自分たちの職業を奪ってしまうかもしれないAIを生み出しているのでしょうか。

2000年以降急速に情報化が進み、企業は、膨大な情報を迅速にかつ正確に投資家や様々なステークホルダーに開示することが求められる時代となりました。かつ、求められるのは財務情報にとどまらず、非財務情報の重要性も叫ばれるようになりました。こういった流れは、特にこの10年でさらに顕著になりました。例えば、気候変動やカーボンニュートラルといった環境問題についてなど、社会の関心事に対する企業の対応が重要視されてきています。このような非財務情報が、これまでの財務情報に加えて企業の価値、社会での存在意義を考える上で重要な情報

となってきているのです。

企業を取り巻くこのような環境により、これまで以上に我々会計士には様々な情報に対する信頼性が期待されるようになってきています。私は、これまで会計士が時間をかけて実施してきた単純な突合などの仕事は、AIに取って替わられるべきであると思っています。それにより、我々会計士はこういった新たな期待に応えることができるのです。非財務情報についても、我々会計士が率先して学び、企業や社会にインパクトを与えられるような存在になっていくことが期待されていると私は考えます。

これからは、会計士が気候変動を語る時代になっていきます。AIは会計士のこれまでの仕事は奪いますが、会計士という職業そのものはAIに奪われることはありません。それはAIにできない新たな価値を社会が会計士に求めているからです。

時代の変化のなかにおいても、我々会計士が常に新しい実学を学び、社会に貢献していくことは、まさに福澤先生の教えそのものであり、塾員たる我々のこれからあるべき会計士像だと強く思います。これから益々我々会計士が活躍できる時代に思いを馳せると一層楽しみになってきます。



公認会計士のニーズは益々高まる時代に！

公認会計士三田会の皆様、公認会計士三田会において事務局担当をしております国見健介です。私は慶應義塾普通部、慶應義塾高校、慶應義塾大学経済学部、卒業後は三田会などの活動を通じ、慶應義塾には長年お世話になってまいりました。公認会計士試験に合格後からは、20年に渡り、公認会計士を目指される方の受験指導に携わせていただき、その間に多くの慶應義塾出身の合格者の皆様に関わることができ、心から嬉しく思っています。

現在、多様な組織や分野において、多くの諸先輩方から、若手公認会計士の皆様まで幅広い分野で皆さんが活躍されており、業界にとどまらず日本社会に大きな貢献をされていることを心から誇りに思っております。これからの時代も一人でも多くの優秀な会計士を輩出するとともに、慶應義塾出身の皆さんの活躍を微力ながら応援させていただきたいと存じます。

これからの10年・20年は、AIの進展、非財務情報の開示の重要性、ブロックチェーンや暗号資産の浸透、新たな国際社会の秩序の進展など、公認会計士業界を取り巻く環境が激動する時代に突入しています。また、監査業務・税務業務に関わらず、事業会社やパブリックセクターなど、多くの組織において公認会計士に対する期待が益々増大していることを日々痛感しています。このような時代の変化や社会からの期待は、公認会計士業界にとって、直面する課題であると同時に大きなチャンスであると私は考えています。監査業務・税務業務にとどまらず、コンサルティング業

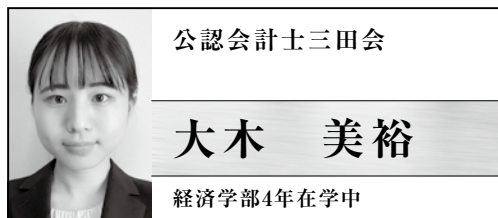
務・アドバイザー業務・組織内会計士など多様な分野で価値を出せる公認会計士は、今後の社会が激変する中でも、社会に必要とされる場面が広がっています。そのような状況の中で、独立自尊の精神を体現した慶應義塾出身の公認会計士が果たすべき役割や活躍の場は、益々大きくなると感じているためです。

このような時代において、一人ひとりが自己研鑽を積み、社中の交流を深めることで、社会に大きな価値を出していけると同時に、社会の先導者としてより良い未来に人々を導く役割を担うことを福澤先生も期待していると思います。私自身もまだまだ未熟者ではありますが、皆様と交流を図りながら学び続け、様々な場面でお互いが協力することで、慶應義塾や社会に少しでも恩返ししていければ幸いです。

コロナ禍で中々交流する機会を設けることができない2年間を過ごしてまいりましたが、感染状況が落ち着いてきたタイミングで様々なイベントや企画を再開するとともに、強化していければと考えており、公認会計士三田会の皆様と交流できることを楽しみにしております。お会いした際には是非お気軽にお声がけいただければ幸いです。

最後になりますが、2021年度公認会計士試験に合格された皆さん、本当におめでとうございます。皆さんが公認会計士三田会に入会してくれたことを心から嬉しく思っています。これからは一緒に進んでいく仲間です。公認会計士三田会、公認会計士業界を一緒に盛り上げていきましょう！

引き続き、宜しく願い致します。



社会から求められる公認会計士へ

公認会計士三田会の皆様、初めまして。経済学部4年の大木美裕と申します。この度は皆様の会報誌でご紹介いただけたとのこと、大変光栄に思っております。御礼申し上げます。私は、2021年(大学3年時)の公認会計士試験に総合1位合格をし、大手監査法人に内定を頂きました。自分の理想の公認会計士像を目指して、日々奮闘しているところでございます。

私は、2016年に慶應義塾女子高等学校に入学し、「独立自尊」の精神を実践する多くの仲間達と高校時代を過ごしました。高校から福澤先生の教を学ぶ中で、「どんなことが起ころうとも絶対に学ぶことを止めてはいけない」という言葉が特に印象に残っております。各々の分野で学びを続け、高みを目指す仲間達は、私の刺激になるとともに、尊敬の対象でもありました。

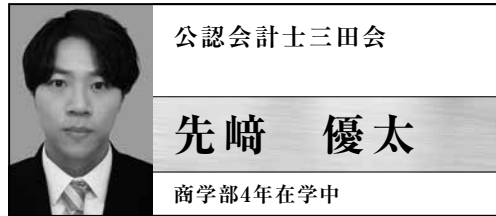
私も「学び続けること」を実践し、そして社会の役にも立ちたいと考え、校門前で配られていた「公認会計士講座」の案内をきっかけに公認会計士を目指すことにしました。もともと数学の世界が好きでしたが、学んでいくうちに更に興味が沸き、奥深い経済の世界にも魅了されていきました。

もちろん合格までの道のりは平坦なものではありませんでした。苦しい時の支えは、同じ目標を持って学び続ける友人の存在でした。友人と切磋琢磨したからこそ合格を掴み取ることができたのだと思います。合格を目指して過ごした日々は、私に継続する力や諦めない心を身に付けさせてくれました。心身ともに大きく成長することができたかと

思います。

私は現在、さらなる成長のために、インターンをしています。そこでは、新規の事業に触れる機会が多く、バイタリティー溢れる起業家の皆様との接触は、自分の理想の公認会計士像に強く影響を与えています。日本の起業家は他の先進国と比べて少ない、と以前新聞で見たことがあります。なぜなのでしょう。理由はさまざまあるのですが、もし会計や経営の知識やノウハウがないからという理由で諦めようとしている方がいるのなら、是非とも力になりたいと考えております。

新たなサービスを届けたいと奮闘している人や支えたいと思える尊敬できる人に、頼ってもらえるような公認会計士になりたいと思っておりますが、私はまだまだ未熟であります。机上から実践への道のりは長いものであると思います。是非とも公認会計士三田会の皆様から教を頂き、自分自身を成長させ、知識面でも人間性面でも頼られる公認会計士になりたいと思っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



人との繋がりを大切に

公認会計士三田会の皆様はじめまして、商学部4年在学中の先崎優太と申します。この度公認会計士三田会の皆様へ寄稿する機会を頂きましたのは誠に光栄なことであり、事務局の皆様にご感謝申し上げます。

私は2019年4月に慶應義塾大学商学部に入学をしました。慶應義塾大学を志望する過程で44年連続大学別の公認会計士合格者数首位という記録があることを知り、そこで初めて公認会計士という存在を知りました。元々数学や暗記科目が得意だったこともあり、簿記3級の無料講座を受けたことがきっかけで2019年6月に公認会計士試験の勉強を開始し、2021年の公認会計士論文式試験に合格しました。

私はもともと2021年の論文式試験の合格を目指す過程において、まず2020年12月の短答式試験に合格することを第一目標としていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で短答式試験が翌年5月に延期になってしまいました。大学の授業もオンラインによる実施になる中で勉強を継続していました。外出を自粛し、大学の授業をオンラインで受けつつ自宅でたった一人で勉強をしていく中で、何度も試験に合格できるのか不安になることがありました。しかし振り返ってみれば、例えば同じ教室や同じ自習室で勉強をしてなかったとしてもSNSなどを通じて切磋琢磨できる友人たちの存在が自分の合格を後押ししてくれたと感じています。

大手監査法人に入社することが決まっております、実際に業務に従事するのは1年後になりますが、実務経験を通して会計及び監査の専門

家としての専門能力の向上と知識の蓄積に努めていきたいと考えています。また私は、継続的な学習によって得られた知識や技術で多くの人を支えることができるような会計士になりたいと考えており、ゆくゆくはIPO業務やグローバル業務など様々な業務に積極的に従事していきたいです。

他にも、公認会計士試験の受験生時代に通っていた予備校でチューターとして受講生の合格をサポートしています。業務に従事していく中で、相手に理解してもらえるように説明することや相手が不快感を持ったり誤解が生じたりしないようにコミュニケーションを取ることの重要性を実感しています。学生時代でしか行うことのできない業務であり、貴重な経験ができていることに普段から感謝しています。

最後になりますが、私は勉強をしている中で、また就職活動をしている中で、様々な方に助けていただきました。「合格」という目標に向かって切磋琢磨した友人たちや、出身校や出身予備校が同じということで就職活動の相談に親身にのってくださった慶應義塾大学の先輩方のおかげで今の私があると考えております。こういった方々との出会い、一つ一つの繋がりを大切に、将来的に社会に貢献できるような人材になるために日々精進して参ります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》

—— 連続 47 年間、合格者数首位を堅持 ——

令和3年公認会計士試験は、令和3年11月19日に合格者が発表されました。

令和3年の公認会計士試験は、願書提出者総数14,192人、論文式受験者数3,992人、最終合格者数1,360人となっています。合格率は9.6%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は178人であり、2位早稲田の126人に52人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から47年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【令和3年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	14,192人(前年13,231人)
短答式合格者数	2,060人(前年1,861人)
最終合格者数	1,360人(前年1,335人)
合格率	9.6%(前年10.1%)

【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾178名、早稲田126名、明治72名、中央65名、東京58名、立命館49名、京都41名、神戸38名、大阪36名、一橋35名

以上

公認会計士2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表
公認会計士三田会編

年次/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1 昭和45年度 (1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2 昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶應義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3 昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4 昭和48年度 (1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5 昭和49年度 (1974)	中央 65	慶應義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	—
6 昭和50年度 (1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	—	—
7 昭和51年度 (1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	東京 6	法政 6	立教 6	東京 5
8 昭和52年度 (1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9 昭和53年度 (1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10 昭和54年度 (1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11 昭和55年度 (1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	—
12 昭和56年度 (1981)	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	立教 3	日本 2
13 昭和57年度 (1982)	慶應義塾 26	早稲田 18	中央 16	明治 14	横浜国立 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14 昭和58年度 (1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	東京 8	立教 5	立教 5	日本 2
15 昭和59年度 (1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16 昭和60年度 (1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17 昭和61年度 (1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 27	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18 昭和62年度 (1987)	慶應義塾 68	早稲田 56	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19 昭和63年度 (1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20 平成元年度 (1989)	慶應義塾 109	早稲田 67	中央 35	明治 35	一橋 26	東京 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21 平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22 平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	立教 8	日本 11
23 平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24 平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25 平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26 平成7年度 (1995)	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	立教 8	日本 8
27 平成8年度 (1996)	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	東京 38	一橋 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	立教 11	日本 4
28 平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29 平成10年度 (1998)	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	立教 12	日本 9
30 平成11年度 (1999)	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	立教 12	日本 11
31 平成12年度 (2000)	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32 平成13年度 (2001)	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33 平成14年度 (2002)	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34 平成15年度 (2003)	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 49	神戸 47	明治 45	大阪 37
35 平成16年度 (2004)	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36 平成17年度 (2005)	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37 平成18年度 (2006)	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38 平成19年度 (2007)	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39 平成20年度 (2008)	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40 平成21年度 (2009)	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41 平成22年度 (2010)	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42 平成23年度 (2011)	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43 平成24年度 (2012)	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 63	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44 平成25年度 (2013)	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26
45 平成26年度 (2014)	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46 平成27年度 (2015)	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	立命館 29	関西学院 28	神戸 28	東京 28	専修 22
47 平成28年度 (2016)	慶應義塾 139	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	関西学院 27	法政 27	神戸 26
48 平成29年度 (2017)	慶應義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29
49 平成30年度 (2018)	慶應義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 39	一橋 37	関西学院 34	立教 32
50 令和元年度 (2019)	慶應義塾 183	早稲田 105	明治 81	中央 71	東京 40	京都 38	立命館 38	神戸 36	一橋 34	法政 34
51 令和2年度 (2020)	慶應義塾 169	早稲田 98	中央 74	明治 60	立命館 52	東京 49	神戸 47	法政 43	立教 42	同志社 34
52 令和3年度 (2021)	慶應義塾 178	早稲田 126	明治 72	中央 65	東京 58	立命館 49	京都 41	神戸 38	大阪 36	一橋 35

次期日本公認会計士協会会長就任のご挨拶

社会に信頼という価値を提供する

公認会計士三田会の皆様、平成2年卒の茂木哲也と申します。この7月より、日本公認会計士協会の会長に就任することになりました。全国4万人を超える会員・準会員を代表して協会会務を司ることについて、責任の重みを改めて感じているところです。

私は平成元年の公認会計士試験、当時の第2次試験に合格致しました。平成合格世代で初めての協会会長となります。70年以上の長きにわたり先人が築いてきた伝統と信頼を受け継ぎつつ、新たな社会における課題解決に取り組んでまいります。

今、公認会計士業界は極めて大事な局面にあります。私の任期である3年間は、公認会計士業界の将来を方向付ける非常に重要な3年間になります。監査業務の信頼性確保に対する社会の期待に、私たちは的確に答えていく必要があります。また、監査以外の分野でも、公認会計士に対する期待は大きく広がり、高まっています。

このような社会の期待を踏まえ、協会は「信頼の力を未来へ Building trust, empowering our future」を新たなタグラインとしました。また、私がリーダーとして取りまとめた協会のビジョンにおいても、「社会に信頼という価値を提供する」ことを公認会計士共通の価値として考えています。公認会計士が社会に信頼を創ることで社会の持続的成長に貢献し、公認会計士が果たしている役割を社会に理解頂くことで、公認会計士が大きな存在感を発揮できる社会を目指していきます。

私は合格直後の1年ほど専門学校で講師を勤めた後は、監査法人一筋に勤務してきました。とはいえ、その中では、メガバンク誕生時の会計監査を担当したり、金融商品会計実務指針の策定に携わったり、行政処分を受けた監査法人の立て直しに執行部として携わったりと、多様な経験をしてきました。多くの困難な局面がありましたが、その時に解決の糸口となったのは、当事者間の相互理解と信頼関係でした。社会に信頼を創るためには、公認会計士自身が社会から信頼され続けることと、ステークホルダーとの信頼関係を構築することが不可欠です。社会からの信頼の維持とステークホルダーとの信頼関係の構築に積極的に取り組みます。

そして、多くの困難な局面において、私を助けてくれた大きな存在が、塾員である先輩や仲間たちです。業務上のいろいろな局面で公認会計士三田会の先輩からたくさんのアドバイスを頂きました。また、公認会計士三田会や年度三田会の仲間と集って他愛のない話で笑い合うことは、大きな心理的支えとなりました。

これまでご指導・ご協力頂いてきた先輩方、また三田会の仲間たちに改めて感謝申し上げますとともに、これからも変わらぬご支援を頂けますよう、お願い申し上げます。



茂木 哲也
平成2年経済学部卒

総会報告

第45期総会

2021年5月31日18時00分から公認会計士三田会第45期総会をオンライン開催しました。第45期の事業報告、会計報告を行い、第45期事業計画及び予算を承認しました。役員を選任は感染症流行の現状を踏まえて、会長、副会長、幹事及び監事は全員留任として選任しました。

第46期総会

2022年5月31日18時00分から公認会計士三田会第46期総会をオンライン開催にて予定しています。

※会報発行時

2022年 秋季研修会・懇親会のご案内

秋季研修会

開催日時：2022年9月29日(木)18:30

開催場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール

講演：慶應義塾長 伊藤公平先生を講師としてお迎えをいたします

懇親会

開催日時：秋季研修会実施後19:30を予定

開催場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎カフェテリア

※社会情勢により懇親会を実施しない可能性がございます

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S52年卒	小見山 満
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	加藤 敏也
副会長	S63年卒	新井 達哉
副会長	H7年卒	森田 健司
副会長	H8年卒	吉川 高史
幹事	S49年卒	梶川 勝
幹事	S52年卒	藤 行正
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関口 弘和
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S58年卒	上林 三子
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さや
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 亮晃
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友紀子
幹事	S61年卒	関川 正
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 源幸
幹事	S62年卒	尾立 介
幹事	S62年卒	川上 尚志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴人
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中野 元彦
幹事	H11年卒	菅野 雅
幹事	H11年卒	吉田 慶太
幹事	H11年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	志賀 恭子
幹事	H3年卒	鈴木 真直
幹事	H4年卒	近田 裕
幹事	H4年卒	土田 惠
幹事	H5年卒	荒瀬 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H5年卒	山邊 道明
幹事	H5年卒	関口 男也
幹事	H5年卒	神塚 熱
幹事	H5年卒	小松 亮一
幹事	H6年卒	菅谷 圭
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H6年卒	田中 弘隆
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修
幹事	H8年卒	田近 和成
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	広野 清志
幹事	H9年卒	須山 誠一郎
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H11年卒	池田 由範
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H13年卒	野中 将二
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H15年卒	根建 崇
幹事	H15年卒	小川 雅嗣

役職	卒業年度	氏名
幹事	H15年卒	野池 毅宏
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	清 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	並木 俊明
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彰子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	柚野 慶二
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H16年卒	石川 資樹
幹事	H17年卒	洪佐 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	高梨 良紀
幹事	H17年卒	渡邊 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	米田 惠美
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 惠
幹事	H18年卒	斎藤 智記
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	依田 明夏
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	葦澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 創平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H24年卒	芦川 昇平
幹事	H24年卒	柿沼 龍
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	清田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	浅見 紗子
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔太
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	藁 銀珍
幹事	H27年卒	古川 拳士
幹事	H27年卒	阿部 紀子
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝浩
幹事	H28年卒	大塚 悠介
幹事	H29年卒	三浦 俊一
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	鄭 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英利
幹事	H29年卒	寺谷 暢泰
幹事	H29年卒	水落 智久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
幹事	H29年卒	古作 祐

役職	卒業年度	氏名
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	宇野 晃子
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子
相談役	S51年卒	山田 辰己
相談役	S52年卒	池上 玄
相談役	S55年卒	森 公高
幹事	H29年卒	後藤 祥平
幹事	H29年卒	井手 優太郎
幹事	H29年卒	上田 真史
幹事	H29年卒	北野 梨子
幹事	H29年卒	小松 汐里
幹事	H29年卒	大津 青葉
幹事	H29年卒	大津 悠吾
幹事	H29年卒	清水 輝
幹事	H29年卒	津川 雅樹
幹事	H30年卒	桂木 裕
幹事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹事	H30年卒	石谷 麻子
幹事	H30年卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	清田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
幹事	H30年卒	会橋 日華
幹事	H30年卒	橋詰 智
幹事	H30年卒	石井 奈緒
幹事	H31年卒	安田 真由
幹事	H31年卒	宮川 和輝
幹事	H31年卒	鈴木 祥希
幹事	H31年卒	相原 花里
幹事	H31年卒	板東 真里
幹事	H30年卒	杉本 優太
幹事	H30年卒	富吉 遼太
幹事	H31年卒	宇野 耕太郎
幹事	H31年卒	小林 裕季
幹事	H31年卒	小塩 麻衣
幹事	H31年卒	高山 大輔
幹事	H31年卒	坂口 幸旺
幹事	R2年卒	坂口 あかり
幹事	R2年卒	高木 万里子
幹事	R2年卒	滝沢 美紀
幹事	R2年卒	文屋 克隆
幹事	R2年卒	本田 瑠梨奈
幹事	R2年卒	武藤 葵
幹事	R2年卒	森 祐也
幹事	R3年卒	齊藤 智弘
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H14年卒	黒澤 久美子

公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年9月1日
 改正 昭和55年1月21日
 改正 昭和58年1月10日
 改正 昭和61年1月17日
 改正 平成15年1月29日
 改正 平成15年12月4日
 改正 平成20年1月30日
 改正 平成23年12月14日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事務所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会員

(会員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章 役員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相談役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
 幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章 会計

(会費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
 会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
 有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。



©慶応義塾

www.cpa-mitakai.net

公認会計士 三田会会報【第46号】

(令和4年6月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

編集発行 公認会計士三田会

国見健介 渋佐寿彦

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-14-20 新宿テアトルビル5F
CPAエクセレントパートナーズ株式会社内
TEL03-6384-2760 FAX03-6384-2390
E-mail: sec@keiocpa.com